

## プレスリリース

# 「訪問看護師って何をする人？訪問看護ステーションって どんなところ？」

～iCONM/CHANGE 市民公開講座のお知らせ～

- 5/27(土)13:30 より、iCONM/CHANGE 市民公開講座「訪問看護師って何をする人？訪問看護ステーションってどんなところ？」(共催：川崎市看護協会、後援：川崎市薬剤師会、川崎市)を開催。
- 川崎市、横浜市、一部の東京都区内に在住する市民 3 千名を対象にした調査の結果、訪問看護師と病院看護師の職務の違いを理解していない方が多いことが判明。
- 超高齢社会にあって要入院患者が急増する中、完治を待たずに回復期に入ったら退院し外来または在宅医療に委ねていかないと病床が足りない状況となっており、患者ひとりあたりの在院日数はここ 10 年で大きく短縮している。
- 設備の整った病院と異なり、各々が別々の生活環境にある地域医療・在宅医療において看護師が 24 時間療養者を世話することは不可能であり、訪問看護師は本人の希望にあわせた療養生活を適切に送れるよう家族を支援することも求められる。
- 病院の地域連携室は主に看護師とソーシャルワーカーで運営されており、平均 10 日程度に短縮した在院期間の間で退院後の療養生活を設計することが求められる。
- 訪問看護師の職務において地域薬剤師との連携は不可欠で、適切な服薬管理が求められる。
- 本講座では、訪問看護ステーション管理者による基調講演に続き、病院の地域連携室担当者、地域薬剤師、訪問看護の利用経験がある市民、現状からのニーズを探るプロジェクト CHANGE リーダーによるパネルディスカッションを開催し、訪問看護ステーションの効果的な利用法について市民啓発を行う。

報道関係者 各位

平素は大変お世話になりましてありがとうございます。

公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（センター長：片岡一則、所在地：川崎市川崎区殿町、略称：iCONM）は、後述の実施要領にて iCONM/CHANGE 市民公開講座「訪問看護師って何をする人？訪問看護ステーションってどんなところ？」を 5/27（土曜）に開催致します。

2022年の出生数が初めて80万人を割ったことが報道されましたが、過去最高の出生数となる269万人を記録した1949年生まれの方々が来年75歳を迎えます。今後、さらに少子高齢化が加速し、入院しての治療を必要とする方々が増える一方、医療の担い手は相対的に減少していきます。既に、必要とする方の病床を確保する目的で、完治を待たずに回復期に入ったら退院することが常態化しており、ここ10年間で患者ひとりあたりの在院日数は大きく短縮しています。その分、地域医療または在宅医療へのシフトが進んでおり、訪問看護ステーションの役割は益々高まっています。しかしながら、市民の認知度はあがっておらず、訪問看護ステーションについて理解を深め、より効果的に市民に利用して頂きたいという願いで、本講座を川崎市看護協会とともに企画致しました。

すべての患者が一定の環境で24時間看護師のケアを受けることができる病院と異なり、退院後は各々が別々の生活環境下で療養を継続することとなります。本人の希望にあわせた退院後の適切な指導の下、「再入院をさせない」ことをミッションとした地域医療・在宅医療を実践する上で、まずは家族が正しい知識を持つことが大切であり、まだ療養者が家庭にいない場合でも多くの市民に啓発が必要だと考えております。

多くの医療職種が関わる地域医療ですが、今回は特に市民認知度が低い訪問看護ステーションにフォーカスし、基調講演として川崎市中原区を活動拠点とするポラリス訪問看護ステーション管理者の阿部直美さんに『「その人らしく生き、逝く」を支える訪問看護』という演題でお話し頂きます。続くパネルディスカッションでは、病院から地域医療へのバトンゾーンとして、聖マリアンナ医科大学病院で地域連携を担う保科かおりさんと薬看連携を川崎市中原区で実践する篠田 豪さんから、それぞれの役割について説明頂き、実際に訪問看護ステーションを利用して家族の在宅ケアを体験した一ノ瀬久美子さんと、現在の課題を拾い上げて解決手段を講じるプロジェクト CHANGEの一木隆範リーダーを加えて、「療養者それぞれが望む生き方に応じた在宅ケア」をテーマに討論を進めていく予定です。

一般の方々を主に対象とした企画です。是非、本シンポジウムにご出席頂ければ幸甚に存じます。

## 記

日時： 2023年5月27日 13時半～15時半  
場所： Zoomによるオンライン（13時15分に開場します）  
参加費： 無料  
事前登録： オンラインミーティングの性格上、5月24日までに以下のサイトからご登録をお願いします。

<https://forms.gle/tQ3QKKWCLrAPxLWV6>

プログラム（お名前の敬称は省略させていただきます）：

- 挨拶  
一木隆範（川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター 研究統括）
- 基調講演
  - 「その人らしく生き、逝く」を支える訪問看護  
～訪問看護師は在宅療養者と家族の伴走者～  
阿部 直美（ポラリス訪問看護ステーション管理者）
- パネルディスカッション「療養者それぞれが望む生き方に応じた在宅ケア」  
阿部 直美 ポラリス訪問看護ステーション管理者  
一ノ瀬久美子 訪問看護ステーション利用経験者（一般市民）  
篠田 豪 川崎市中原区薬剤師会理事（マルゼン薬局 代表取締役）  
保科かおり 聖マリアンナ医科大学病院看護師  
一木 隆範 iCONM 研究統括 / CHANGE プロジェクトリーダー（PL）  
モデレーター：島崎 眞（iCONM コミュニケーションマネージャー/CHANGE 副PL）
- 質疑応答

主催： 川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター

共催： 川崎市看護協会

後援： 川崎市薬剤師会、川崎市

### 公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の100%出捐により昭和63年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

### ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成27年4月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

## 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) について

大学等が中心となって 未来のあるべき社会像 (拠点ビジョン) を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す文部科学省/JST の産学連携プログラム。前身の拠点形成型プログラムである、センター・オブ・イノベーション (COI) プログラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」ともいいます。知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、これまでの改革により、大学等のガバナンスとイノベーション創出力の強化が図られてきました。今後、「ウィズ/ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、我が国が、現在そして将来直面する課題を解決し、世界に伍して競争を行うためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官の共創 (産学官共創) により構築することが必要となります。

<https://www.jst.go.jp/pf/platform/outline.html>

## プロジェクト CHANGE について

2022 年 10 月に COI-NEXT 共創分野・本格型に採択された「レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点」をプロジェクト CHANGE と呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」をビジョンに掲げ、看護に携わる方々の支援と生活者の身体機能の維持を両輪として少子高齢社会の課題解決に繋がる道具やシステムの研究開発を行っています。川崎市産業振興財団が代表機関となり、ナノ医療イノベーションセンターを中核に、大学・企業に加え川崎市看護協会や国立医薬品食品衛生研究所、川崎市健康安全研究所など 36 機関が共創するプロジェクトです。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

## 川崎市看護協会について

全国で唯一、市レベルで法人格を持ち活動している看護協会です。各種研修の開催や委員会活動を通して、看護職の人材育成や働く環境改善に取組み、川崎市内の看護職がいきいきと働き続けられるよう活動しています。また市民に身近な看護協会として、子育て支援や在宅療養支援等を通して市民の安心と笑顔を支える活動をしています。

<https://www.kawa-kango.jp/>